

# 令和4年度 山口市医師会女性医師部会総会報告

竹本 成子

令和4年6月25日(土)18:00より令和4年度山口市医師会女性医師部会総会が山口市医師会中会議室で開催された。会員53名中、参加者は11名、委任状提出者が17名であった。

まず、國近尚美部会長から開会の挨拶があり、以下の議案について協議がなされた。

## ◇議案1. 令和3年度事業報告

- 1) 第1回役員会 令和3年4月8日
- 2) 総会 令和3年7月3日(土) 山口市医師会大会議室+Zoom参加  
講演会「高齢者の在宅医療に潜むリスクと対策」  
筑波大学大学院人間総合科学研究科 教授 原田 悦子 先生
- 3) 第2回役員会 令和3年10月19日
- 4) 山口・吉南女性医師部会合同研修会 令和4年1月29日(土)山口市医師会大会議室  
参加者14名(うち吉南医師会から6名参加)  
「山口のトップソムリエが誘うワインの世界～あなたが本当に満足するワインの選び方～」  
(株)井筒屋 まつなが あきひろ 松永 成央 氏
- 5) 第3回役員会 令和4年1月29日
- 6) 男女共同参画部会総会・講演会 令和4年3月6日(日) 山口県医師会

## ◇議案2. 令和3年度決算報告及び会計監査報告

### 収入の部

会費(1,000円×43名)	43,000
出席者負担金	110,760
助成金(市医200,000 県医100,000)	300,000
預金利息	2
雑収入	800
繰越金	295,877
収入合計	750,439

### 支出の部

総会費	208,680
研修会費	135,400
役員会費	6,000

雑費	0
予備費	0
支出合計	350,080

差引(次年度繰越金)	400,359
------------	---------

以上の事業報告、決算報告と会計監査報告がなされ、いずれも承認された。

## ◇議案3. 令和4年度事業計画(案)

- 1) 役員会 以下の2)～4)について企画検討するために年に2～3回開催予定(第1回令和4年4月28日開催)
- 2) 総会・講演会  
総会：令和4年6月25日18:00～山口市医師会中会議室
- 3) 山口・吉南女性医師部会合同研修会 令和5年1～2月頃 開催予定
- 4) その他
  - ① 男女共同参画・女性医師部会連携会議への参加
  - ② 山口県医師会男女共同参画部会総会への参加 令和5年3月5日(日)
  - ③ その他  
本会の一般会員と病院勤務医師との意見交換会などの開催を検討

## ◇議案4. 令和4年度予算(案)

### 収入の部

会費(1,000円×53名)	53,000
負担金	130,000
助成金(市医200,000 県医100,000)	300,000
預金利息	3
前年度繰越金	400,359
収入合計	883,362

### 支出の部

総会費	430,000
研修会費	210,000
役員会費	9,000
雑費	30,000

予備費	204,362
支出合計	883,362

以上の事業計画と予算案が提案され、いずれも承認された。

◇議案5.

女性医師部会慶弔費規定に関して、役員より提案があったが、参加者から、医師会の下部組織内で慶弔費を設定することについて医師会の承認が必要ではないかとの意見があり、検討課題とすることとなった。





# 「がんと共に生きる～医師として患者として～」

JA北海道網走厚生病院 呼吸器科 <sup>すずき ゆうこ</sup> 鈴木 夕子 先生

このたびは、山口市医師会女性医師部会総会の講演にお招きいただき、「がんと共に生きる～医師として患者として～」という演題で講演をさせていただきました。私は現在、北海道の斜里町という町に住んでおり、40キロ離れた網走市の総合病院である網走厚生病院で呼吸器内科医として働いております。2011年に斜里町在住のサケマス漁師である現在の夫と結婚し、斜里町へ移住いたしました。結婚後5年で大腸癌が見つかり、私のがんとの闘いが始まりました。卵巣転移、子宮転移など転移するたびに手術を繰り返していましたが、2020年からは多発肺転移となり、手術不能となりました。しかし、抗癌化学療法を続けていき、数十個の転移が1個までになり、その1個をラジオ波という治療で焼灼し、抗癌化学療法は続けておりますが、現在1年2か月再発、転移なく過ごしております。講演では私の受けたラジオ波治療についても、ご紹介させていただきました。ラジオ波は悪性腫瘍の治療方法のひとつで、現在では肝臓の悪性腫瘍に対して保険適応となっております。超音波やCTを見ながら、腫瘍に命中するように直接針を刺し、針の先から「ラジオ波」という電磁波のエネルギーを照射することで病巣に熱を与え、腫瘍を直接焼灼します。肺転移に対するラジオ波治療は、自費診療ではありますが、入院も不要で症例によっては、非常に有効であると思ひ、先生方にご紹介させていただきました。

さて、私は大腸癌に罹患してから、入院中を除いては抗癌化学療法を行いながら、病院での勤務も続けております。母校の奈良県立医大病院で治療していた頃は、3週間に1回金曜日に外来治療センターで治療し、週明けに北海道に戻って勤務するというサイクルでした。しかしコロナ禍で北海道と関西の往来が厳しくなり、自身が勤務する病院での治療となりました。それまでは医師やごく一部のスタッフのみが私の病気を知っているという状況でしたが、勤務先で治療することになり、多くの職員が知る事となりました。しかし、多くの方に励ましの声

をいただき、氣遣っていただけることもあり、私にはプラスになっています。現在仕事をされている患者様が直面する病気以外での1番の悩みは、仕事のことだと思います。特に、進行癌の場合は、復帰できるか、治療しながら続けられるか相談されることも多いです。当然、その職種であったり、勤務体系であったり、職場環境などさまざまな問題があります。しかし、まず1番は、ご本人の仕事をしたいという気持ちであると考えています。やりがい、病気を忘れる瞬間、人から必要とされているという気持ちは治療にもいい影響を与えていると考えています。しかしそれには、職場や家族のサポートが不可欠です。職種によっては、全く同じ業務は難しいかもしれません。職場の協力が得られるなら、よく相談して無理のない勤務をして、仕事がかえってストレスになるなら、一度離れてみることを勧めています。辛い治療とストレスのある仕事では病気に良いことはありません。

患者様にもいろんな方がいて、癌を宣告されたたん、全てを捨て、全パワーを癌治療に注いでしまう患者様もいます。最初は誰もがショックでそのような気持ちになることは当然です。でも1日中病気のこと、がんのことを考えて過ごすなんて馬鹿らしいではありませんか。患者様にはまず治療を始めてみて、それからまた続けられるか、やめたほうがいいのか考えましょうとアドバイスしています。

病気のこととは普段は忘れて、治療の時に思い出すくらいでいいと思います。仕事でも趣味でもしたいこと、好きなことを思い切りやるのが大切であり、それを周囲の方も後押ししていただければと思います。最近ではキャンサーギフトという和製英語があるそうで、がんからの贈り物という意味でがんを経験したからこそ得られるもの、得られる幸せがあるということだそうです。私見ではありますが、切除不能進行癌ステージⅣの私にとって、癌になって良かったことなど何もありません。ただ医師という職業であり、ステージⅣの癌になってしまった私はそうでない人に早期発見の必要性を語ることが

任務と思っています。

最後に私が癌のステージⅣになって、いつも思うこと“幸せ一定の法則”で締めくくらせていただきました。「誰でも 良いことも悪いこともあるはず 人生プラス マイナスゼロだと思っています。長い人生考えれば みんな平等に幸せはあるはずです。そして長い人生には、誰にでも、辛いこと、悲しいこともあります。

私は癌になって、いっぱい辛いこともあり、我慢したり諦めたこともありました。でも家族に支えられ、友人に支えられいっぱい幸せを感じています。」

この講演会で、初めて公に自身が大腸癌ステージⅣで闘病していることをお話しさせていただきました。初めてのことで緊張いたしましたが、たくさんの先生方に聴いていただき、励ましのお言葉をいただき、自分自身の頑張る意欲やパワーが増したと感じております。貴重な機会をお与えくださった山口市医師会女性医師部会会長の國近尚美先生はじめ、山口市医師会、山口市医師会女性医師部会の先生方、本当にありがとうございました。また先生方にお目にかかる日を楽しみにしております。

